



橋市杯 第32回 白嶺賞 (M3)

水沢競馬場 3歳以上オープン・ダート1400m

3月29日 (日) 18:05発走

白嶺賞の創設は1991年度（実施は1992年1月4日）。当初は年明け1月のオープン特別で行われていましたが、2002年度から12月へ移行（一度11月に実施）。2012年から重賞へ格上げ（2016年は特別）されましたが、休止。一昨年、2019年（2020年は取り止め）以来、久々に復活し、開催時期も3月末に移行しました。この白嶺賞を皮切りに栗駒賞、早池峰賞、岩鷲賞、JpnIII・クラスターカップが岩手短距離路線の王道となりました。

【注目馬情報】

★スプラウティング セン7歳 酒井仁きゅう舎・水沢

中央時代の好走がダート1400mに集中。3勝2着4回3着2回をすべて同距離でマークし、昨年4月に岩手入り。初戦の水沢1400m重賞・栗駒賞を快勝しました。無理のないローテーションで着外はJpnI・マイルチャンピオンシップ南部杯、JpnIII・クラスターカップ、重賞・青藍賞の3度のみ。通算4勝をあげ、絆カップでも2着を確保しました。ベストの1400mを舞台に好発進を決め、栗駒賞2連覇へまい進します。

★スターシューター 牡8歳 櫻田浩樹きゅう舎・盛岡

南関東で大井専門に使われて13勝をあげてオープンに在籍しました。一昨年12月に転入し、1勝3着1回。昨年は休み明け2戦目に白嶺賞へ臨み、鮮やかなまくりを決めて重賞ウイナーの仲間入りを果たしました。以降は精彩を欠いて7月から休養。それが功を奏し、終盤2戦を1、2着にまとめました。今回、850m戦を叩いて白嶺賞は当初の予定どおり。自慢の決め手を駆使して白嶺賞2連覇へ王手をかけました。

★カナオールウェイズ セン6歳 菅原勲きゅう舎・水沢

中央芝2600m2勝から南関東・浦和1400m1勝から転入。芝では3、5着止まりでしたが、ダートに替わって動きが一変。芝4着をはさんでダート2連勝を飾りました。勢いを駆って岩手版グランプリ・桐花賞へ挑戦してタイム差なし3着に惜敗しました。今回は距離対応がネックですが、岩手の水が合いました。

★ショウナンナスカ 牡4歳 千葉幸喜きゅう舎・水沢

中央未勝利から転入後、圧巻の7連勝。秘めた素質が開花させて今年A級入り。いきなり重賞・駒形賞へ挑戦して3着。岩手で初めて敗戦を喫しましたが、オープン重賞も2度目。ペースにも慣れたのは確実です。

★メイショウイジゲン 牡8歳 櫻田康二きゅう舎・盛岡

中央2勝クラスから昨年6月に転入。コースを問わず1400m戦で3勝をマークしました。前走は久々に加えて850mの忙しい競馬が合わず5着でしたが、この一戦を使ってベストの距離を迎えました。

★レディブラウン 牝8歳 千葉幸喜きゅう舎・水沢

昨年、2勝2着1回3着2回。牝馬重賞・ヴィーナススプリントを優勝し、白嶺賞で2着を確保しました。水沢コース7勝をすべて1400mであげているように自信の条件。久しぶりの実戦も苦にしません。

文／松尾康司